

JSR 株式会社
2024年3月期 第2四半期決算説明会 質疑応答要旨
(2023年11月6日開催)

決算補足資料: https://ssl4.eir-parts.net/doc/4185/ir_material_for_fiscal_ym/143682/00.pdf

1. デジタルソリューション事業について

Q) 通期業績予想の下方修正について。JSR は輸出が多く円安の恩恵を受けやすい中での今回の下方修正の背景を教えてください。

- 市場での当社マーケットシェアは良好。また、今回の業績下方修正は半導体サイクルの影響。半導体の分野において、足元では底を打っている状況ではないかと見ている。ただ、回復時期とスピードの予測は難しく、当社では恐らく2024年頃からはないと予測している。
- 半導体需要が減速している中で当社ではしっかりとコスト管理をしていくが、半導体分野のファンダメンタルは非常に力強い。当社事業ポートフォリオでは、ディスプレイ事業においても回復が見られ、ライフサイエンス事業もポートフォリオとしてよいポジションにあり、当社の事業戦略を継続していく。

Q) EUV シェアの拡大は DRAM が主なのか。下期に向けて、どのような EUV の立ち上がりを前提しているのか。

- 当社シェアは各アプリケーション含め顧客基盤全体において良好な進捗。
- 需要面では、メモリ、特に NAND で減速しており、回復には少々時間がかかると見ている。EUV に関しては、下期でのシェア拡大も期待でき、将来的には量産に入ることでの今後の当社 EUV の売上増が見込める。

Q) 半導体材料のコア営業利益は売上の減収幅より大きく減少しており、この背景を教えてください。

- 半導体材料のコア営業利益減は、利益率の高い製品が落ち込んでいる、価格が下がったなどの影響でなく、全体的な販売数量が需要低迷により落ちたことが影響。
- 一方、半導体材料の先行投資は継続しているため昨年度対比で固定費は増加。固定費は計画内での増加であるものの、昨年度対比ではコスト増になっている。

Q) 今後の半導体需要の見立てを、ロジック、メモリ別に教えてください。

- 当社に限らず、業界全体として半導体需要は V 字回復すると見ている。回復度合いは緩やかかもしれないが、足元の底から回復する見通し。
- 不透明ではあるが、2024年の回復度合いについては、ロジックは他アプリケーションと比較して先に回復、その後 DRAM、NAND の順に回復すると見ている。

2. ライフサイエンス事業について

Q) 今回の通期業績予想の修正には、バイオテック業界の低迷、不透明感を反映しているようだが、下期、また来年に向けてバイオテック業界をどう見ているのか教えてください。

- バイオテック業界の低迷は、先端領域のプログラムに特化する Crown において影響を受けている。また Crown の成

長は比較、中国に特化する計画をしていたが、中国のバイオテックへの資金流入も低迷している状況。足元は厳しい状況だが、需要環境は今後改善すると考えている。

- ライフサイエンス事業の下期については、KBI で主に行っている能増と効率化により売上が増加している。新工場の立ち上げは過去遅れたものの、現在は立ち上がっており、今年度の期初想定を上回る稼働を下期に予定している。コロラド工場は大規模修繕のため稼働を停止していたが、現在は再稼働している。そのため、上期対比で下期は売上が大幅に改善する見込み。

Q) 通期業績予想の下方修正はトップラインの減少よりもコア営業利益の減少幅が深刻なように見える。ご説明いただきたい。

- 今回のコア営業利益の下方修正は在庫評価損(FY23Q1 発生)、廃棄損などの特殊要因が大きい。在庫に関する特殊要因以外には、足元需要の低迷が Crown の売上に影響が出ているだけでなく、貸倒リスクがあり KBI においても一部影響を受けている。そのようなダウンサイドのリスクも保守的に今回の業績修正に反映させた。

3. JIC キャピタル (JICC) との戦略的パートナーシップについて

Q) 中国競争法に関する手続きは通常審査か。予定とされている 12 月下旬の TOB 開始は可能か。

- 個々の申請に関する開示はしていない。審査に必要な書類は JICC より提出しており、引き続き必要に応じて対応する。現時点で、懸念となるようなことはない。

Q) 本戦略的パートナーシップのもとで、半導体材料業界の再編を目指すとのことだが、再編動向について教えてほしい。

- 詳細についてはお話ができない。ハイレベルなディスカッションというのは加速しているように感じており、当社内では様々なシナリオを検討している。TOB のプロセスが完了した際には、確固たる戦略を進めていく。

Q) JSR 株価が TOB 価格を下回っており、中国のクリアランス取得に対する不安感が要因かと推察するがどうお考えか。

- 株価は市場が決めることだと考えており、当社からのコメントは差し控えていただく。市場に対しては、できるだけ透明性を持ってご説明していきたいと考えている。

Q) 今回、通期業績予想を大幅に下方修正したことで、TOB 価格の修正や TOB が不成立になるというリスクはないのか。

- これまで開示させていただいた以上に当社から申し上げることはない。申し上げられるのは、今現在何か懸念される点は特になく認識であるという点。

以上